

今年8月、JRバス東北の十和田北線が運行開始90周年を迎えました。現在、この路線では記念エンブレムを取りつけた車両が運行されています（来年3月まで運行予定）。



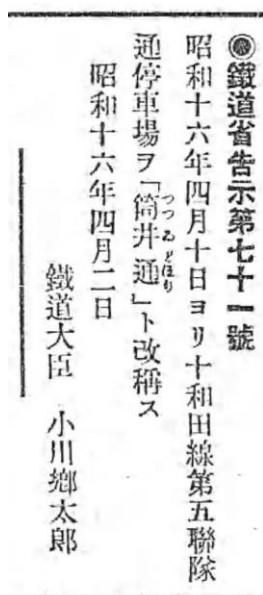
青森駅と十和田湖を結ぶ十和田北線は省営自動車十和田線として昭和9年(1934)8月5日に開業しました。『官報』第2276号(昭和9年8月2日発行)には開業当初の停車場(バス停)の情報が掲載されています。これによると青森駅を出発したバスは、柳町、浦町停車場通、堤橋、第五連隊通、玉川、妙見と進んで八甲田・十和田湖方面へ向かっていました。

さて、開業当初にあった駐車場のうち、現在はない「第五連隊通」が気になり調べたところ『官報』第4269号（昭和16年4月2日発行）に興味深い記述を見つけました。それは「昭和十六年四月十日ヨリ十和田線第五連隊通停車場ヲ『筒井通』ト改称ス」という鉄道省の告示です。「筒井通り」というバス停は現在、市営バス・JRバス東北が使用していますね。では、なぜ昭和16年に停車場名を改称することになったのでしょうか。

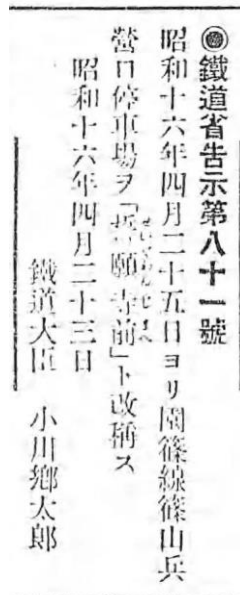
●鐵道省告示第三百五十一號					
昭和九年八月五日ヨリ十和田線青森和井内間ニ於テ左ノ各號ニ依リ自動車ニ依ル運輸營業ヲ開始ス					
昭和九年八月二日					
一、停車場及杆程					
青森	所	在	地	杆	程
青森市浦町				青森柳町間	一杆零分
青森市浦町				柳町浦町停車場通間	一杆零分
同市同町				浦町停車場通堤橋間	一杆零分
同市堤町				堤橋第五聯隊通間	一杆零分
青森縣東津輕郡筒井村大字浦町				第五聯隊通玉川間	一杆零分
同縣同郡同村大字濱田				玉川妙見間	一杆零分
同縣同郡荒川村大字八ヶ役				妙見津輕横内間	二杆零分
同縣同郡橫内村大字濱内				津輕横内龜井間	一杆零分
同縣同郡同村同大字				龜井雲谷間	三杆零分
同縣同郡同村大字雲谷				雲谷青森縣展望所間	二杆零分
同縣同郡同村大字横内				青森灣展望所畔清水間	一杆零分
同縣同郡同村同大字				畔清水岩木山展望所間	二杆零分
同縣同郡同村同大字				岩木山展望所見晴臺間	二杆零分
同縣同郡同村同大字				見晴臺蒼野茶屋間	一杆零分
同縣同郡同村同大字					

『官報』第2276号の一部
(1934年8月2日発行、国立国会図書館
デジタルコレクション)

残念ながら、当時の新聞から改称に関する記事を見つけることはできませんでした。そこで、同じような事例を探したところ、省営自動車では昭和16年4月25日にも園篠線^{えんじょうせん}(京都府の園部駅と兵庫県の篠山口駅を結ぶバス路線)の「篠山兵営口」停車場を「誓願寺前」と改称していることがわかりました(『官報』第4286号)。篠山兵営とは篠山町(現丹波篠山市)にあった歩兵第七十連隊の兵営です。「第五連隊通」と「篠山兵営口」という停車場名には、附近に陸軍の連隊があることを示すという共通点があります。



『官報』第4269号の一部
(1941年4月2日発行、国立国会
図書館デジタルコレクション)



『官報』第4286号の一部
(1941年4月23日発行、国立国会
図書館デジタルコレクション)

実は、鉄道については昭和15年頃から軍事施設や貯水池など防衛上秘匿すべき施設の名称を掲げた駅名を改称する「防諜改称」が全国各地で行われていました。例えば、湘南電気鉄道(現京浜急行電鉄)の横須賀軍港駅は横須賀汐留駅、京阪電気鉄道の師団前駅は藤森駅と改称されています。こうした駅名の「防諜改称」とあわせてバスの停車場名も改称されたとみられます。

※今回の内容は『十和田北線開業五十周年記念誌』(日本国有鉄道東北地方自動車部青森自動車営業所 1985年)、『地域の信頼 明日への希望 十和田北線開業60周年記念』(JRバス東北 青森支店 1994年)、今尾恵介『消えた駅名』(東京堂出版 2004年)、今尾恵介『地名の社会学』(角川学芸出版 2008年)などを参考にしました。